

平成三十年度 大妻中野中学校

第四回アドバンスト入試  
第二回グローバル入試

二月三日午前 問題用紙

# 国語

座 席 番 号
番

受 験 番 号
番
氏 名

### 受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて9ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認してください。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を記入してください。座席番号と受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

青々と連なる①棚田たなだの真ん中に小さな高まりが見えた。

周囲から取り残され、ぼつんとたたずむ丘。地元の人こゝろの人はこれを「鉄穴残丘かねなざんきゅう」、あるいはただ残丘と呼ぶ。

島根県の奥出雲地方おくいずもは古来、鉄の大産地として知られた。「諸郷もろの郷より出すところの鐵堅てつがねくして」と記す「出雲国風土記ふとぎ」は、8世紀の成立だ。

当時の製鉄は「たたら製鉄」と呼ばれる、砂鉄を木炭で熱して還元し、純度の高い鉄を得る手法。良質の砂鉄が採取でき、燃料が得やすい場所として中国山地が選ばれた。江戸時代後期、同山地の鉄の産出量は全国の7／8割を占めたとされる。

そうやって作られた鉄の原材料を、奥出雲から、日本海側の宍道湖しんじこや、積み出し港である中海に面した安来やすぎまで運んだのが「鉄の道」である。7月中旬、鉄採取の跡が残る奥出雲町から旅を始めた。

32度を超える暑さの中、町教委社会教育課課長の高尾昭浩さん(49)と、主任主事の宍戸俊悟さん(34)の案内で町内を回る。あちこちで目にしたが、鉄穴残丘だった。

たたら製鉄が盛んだった近世、原料となる砂鉄の採取は、それを豊富に含む山肌を掘り崩す形で行われた。

採取地まで水を引いて、山を開削かいかくし、砂鉄を含む山砂を水と一緒に下流へ流す。さらに、高低差をつけた複数のため池を介かすることで、砂鉄と山砂を選別した。

このプロセスが「②鉄穴流し」。

a、崩くずそうとした場所に墓かぶがあったり、ご神木ごしんぼくがあったり、ほこらがあったりした場合、そこだけが元の状態で残された。それが残丘なのである。

宍戸さんに導かれ、よじ上る。胸をつくような急な丘の上から周囲を見回すと、数百ひゃく以上の尾根まで、同じ高さの場所はない。「あそこまで全部切り崩されたんです」。予想はしていたが、驚いた。

今や同町の典型的景観ともいえる、たくさんたくさんの棚田も、鉄穴流しの跡を利用したものだ。削けずられた段差を利用する形で田んぼが作られた。ため池も、鉄穴流し用の池を転用したものが多おほい。

目当ての鉱物資源を採取するため、地形まで変えて行われてきた鉄穴流しは、見方を変えれば「③自然しぜん X」でもある。実際、同町では、本来はつながっていたと思われる丘陵きゅうりやうが、時に1ヶ所1ヶ所近くにわたって断絶する地形が④散見さんけんされる。重機じゅうきがない時代、文字通り、くわ1本、数百年がかりでの手作業だった。

「でも」と、自らも農業を営む高尾さんは続けた。

「⑤先祖は荒廃した自然をそのままにしておかなかった。それは誇ほこっていることだと思っています」

人口約1万3千人の奥出雲町は、冬には1尺を超す雪に覆われる。主産業は農業だが、実はその名産品の多くに「鉄」が関係している。

鉄穴流しの跡から生まれた棚田で栽培される「仁多米」。コシヒカリの産地ブランドだが、日本穀物検定協会の米食味ランキングで、「特A」を獲得した。「東の魚沼、西の仁多米」などとも言われる。

「出雲そば」も全国的な地名度を誇る。同町で栽培されているのは「横田小そば」という在来種だが、これも元々は、棚田にする前の耕作地や、製鉄に必要な木炭をつくるため、森林を伐採した跡に植えていたものだった。

**b** ブランド牛の「奥出雲和牛」。こちらは鉄原料を運搬するため、より強靱な荷役用の牛を求め続けた鉄師たちが、たゆまず品種改良を試みた歴史がベースとなって誕生したとされる。「この町の今の農業基盤の元は、いずれも鉄にあると言っていると思います」と高尾さん。まちで暮らす人々も、たたら製鉄の歴史が、**⑥**特別なものと自覚し始めている。

その風景は、「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」として2014年、中国地方で初めて、国の重要文化的景観に選定された。

それを機に、福頼地区には手製の棚田展望台が誕生し、棚田が集中する追谷地区ではLEDを使ったライトアップが実施されている。原たたら跡の小屋には今年、「cafe TATARANOIE」がオープンした。

続いて、雲南市を訪れた。目指したのは、菅谷たたら山内である。製鉄を行う「たたら」の土炉が置かれた高殿と呼ばれる建物が唯一保存されており、周囲には元小屋と呼ばれる支配人の住居と事務棟を兼ねた建物などが残る。

菅谷高殿・山内生活伝承館施設長の朝日光男さん(71)によると、**⑦**菅谷の高殿は江戸時代の1751年の創始で、1921(大正10)年まで鉄生産が行われた。計8643回の操業が行われたとの記録が残る。

たたらで鉄を生み出す操業の1プロセスを「一代」と呼ぶが、実際は3昼夜で、菅谷たたらでは1回に13トの木炭と12トの砂鉄を使い、千貫(3・75ト)の鋤と呼ばれる鉄の塊の生産を目指した。

その際、活躍したのがふいご。**⑧**人力で炉に空気を吹き込む機械で、宮崎駿監督のアニメ「もののけ姫」で、女性たちが元気に働いていた、たたら場のシーンにも登場した。**c** あの映画の高殿の外見の描写は、菅谷たたらがモデルになったといわれる。

**⑨**今は二十数人しか住民がいない菅谷の集落ですが、操業時には160〜170人が暮らしていたそうですと、地元出身の朝日さん。できあがった鋤は打ち砕かれて、上質の「玉鋼」のほか、数種類の等級に鑑別され、一部は「包丁鉄」と呼ばれる鉄材料に再加工されて、馬や牛に背負われ、川船なども使われて宍道湖方面へと出荷された。

それらを含めた、鉄の積み出し港として栄えたのが、安来節で有名な安来である。

奥出雲からだど距離にして数十キロ。現在なら車で1時間ほどだが、当時は一昼夜以上をかけて鉄素材が運ばれた。

そして安来港をへて全国へ。新潟県の三条をはじめ、各地の刃物産地を支えていたのは出雲の鉄だったのだ。

安来港にたたずんで、海をみつめる。

**d** 「安来千軒」と呼ばれる栄華を誇った港町。滑稽<sup>こっけい</sup>など<sup>※</sup>じょうすくいの踊<sup>おど</sup>りを含むことで知られる安来節も、ここを拠点に日本海沿岸を航海していた船乗りたちの間で歌われていた「さんご節」や「出雲節」が、次第に整えられ、現在のようになつたという。

明治時代に入ると、鉄鉱石を原料とした近代製鉄が主役となり、量産に向かないたたら製鉄は終幕を迎える。しかし、その一方で、安来や奥出雲の一部では合資<sup>※</sup>会社<sup>ごうし</sup>が設立され、最新の製鉄技術を導入すべく模索が続いた。その伝統は、高級特殊鋼<sup>ひい</sup>に秀<sup>ひい</sup>でた、日立金属安来製作所へと受け継がれた。

鉄穴流しは**e**行われていない。たたら製鉄も、日本美術刀剣保存協会が運営する「日刀保<sup>にちとうほ</sup>たたら」（奥出雲町、非公開）を除き、消えてしまった。しかし、⑩鉄師<sup>てつし</sup>たちが抱<sup>かか</sup>っていたはずの誇りは、奥出雲、雲南、安来のここかしこで、今も感じることができるといえる。

（2017年7月29日『朝日新聞』「みちものがたり」〔宮代栄一〕より）

〔注〕※1 鐵<sup>まがね</sup>…鉄の昔の呼び方。

※2 開削<sup>かいさく</sup>…山野を切り開いて、道路や運河を通すこと。

※3 神木<sup>しんぼく</sup>…神社の境内にあつて、その神社とゆかりの深い樹木。

※4 強靱<sup>きやうじん</sup>…強くて弾力性のある様子。

※5 たたら…足で踏んで空気を送る、大型の送風装置。

※6 高殿<sup>たかどの</sup>…高く作つた建物。

※7 玉鋼<sup>たまはがね</sup>…日本刀の製作に用いる、砂鉄をとかした鋼。

※8 どじょうすくいの踊<sup>おど</sup>り…安来節の唄<sup>うた</sup>に合わせてドジョウをすくうまねをする踊り。

※9 合資<sup>ごうし</sup>…複数の人が資本を出し合うこと。

問一 — 部①「棚田」とありますが、奥出雲地方の「棚田」はどのような特徴がありますか。「くである点」に続くように、本文中の語句を使って二十五字以内で説明しなさい。（句読点は除く）

問二 — 部②「鉄穴流し」とは、何をするために行うのですか。それを説明した部分を傍線部まうよりも後の部分から十五字で抜き出して答えなさい。

問三 — 部① a e にあてはまる語句を次のア～カの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、解答は全て違う記号になります。

ア. もはや      イ. かつて      ウ. さらに      エ. なぜなら      オ. しかし      カ. ちなみに

問四 — 部③「自然 ≪ X ≫」とありますが、≪ X ≫にあてはまる言葉を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 発展      イ. 改善      ウ. 現象      エ. 破壊      オ. 保護

問五 — 部④「散見」とありますが、同じ意味で使われている部分を2ページの本文中から九字で抜き出して答えなさい。(句読点は除く)

問六 — 部⑤「先祖は荒廃した自然をそのままにしておかなかつた」とありますが、具体的にはどのようなことをしましたか。本文の内容に**合わないもの**を次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア. 鉄穴流して作られた鉄の原材料を各地に運んだ「鉄の道」  
イ. 鉄穴流し用の池を転用して作られた「ため池」  
ウ. 森林を伐採した跡に栽培されている「横田小そば」  
エ. 鉄師たちがたゆまず品種改良を試みた「奥出雲和牛」  
オ. 原たたら跡にできた「cafe TATARANOIE」

問七

——部⑥「特別なものと自覚し始めている」とありますが、まちで暮らす人々はどのように感じていますか。最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 目当ての鉱物資源を採取するため手段を選ばなかったことに危機を感じている。
- イ. たたら製鉄が現在まで日本の製鉄の中心的な役割であることに自己満足を感している。
- ウ. 自分達が生活している地域が現在までにたどってきた過程に誇りを感じている。
- エ. 鉄穴流しの跡から生まれた仁多<sup>にた</sup>米がランキングで「特A」になったことに優越感を感じている。
- オ. 現在ではもう製鉄に関する仕事がなくなってしまうことを残念に感じている。

問八

——部⑦「菅谷の高殿は江戸時代の1751年の創始で、1921（大正10）年まで鉄生産が行われた」とありますが、その後鉄生産が行われなくなった理由は何ですか。「くから」に続くように、本文中から三十字以内で抜き出して答えなさい。

問九

——部⑧「人力で炉に空気を吹き込む機械」とありますが、なぜ炉に空気を吹き込むのですか。その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 空気中に含まれる酸素を用いて、風の力で鉬<sup>けら</sup>を吹き付け、純度の高い鉄を手に入れるため。
- イ. 空気中に含まれる酸素を用いて、風を吹き込んで循環させ、純度の高い鉄を手に入れるため。
- ウ. 空気中に含まれる酸素を用いて、炉の中をいったん低温にし、純度の高い鉄を手に入れるため。
- エ. 空気中に含まれる酸素を用いて、炉の中をより高温にし、純度の高い鉄を手に入れるため。
- オ. 空気中に含まれる酸素を用いて、砂や不純物を吹き飛ばし、純度の高い鉄を手に入れるため。

問十 — 部⑨「今は二十数人しか住民がない菅谷の集落ですが、操業時には160〜170人が暮らしていたそうです」について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) このような状態を何と言いますか。最も適切なものを次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 孤立      イ. 過密      ウ. 独立      エ. 過疎      オ. 単独

(2) (1) を選んだ理由はなぜですか。あてはまるものを次のA〜Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A. 菅谷の集落の人々が自分達のみだけで行動し、生活することを表しているから。
- B. 菅谷の集落の人々がただ一つ奥出雲に残された村であることを表しているから。
- C. 菅谷の集落の人々が他の集落と遠くへ離れたってしまったことを表しているから。
- D. 菅谷の集落の人々が非常に少なくなってしまったことを表しているから。
- E. 菅谷の集落の人々が年々多くなりすぎてしまったことを表しているから。

問十一 — 部⑩「鉄師たちが抱いていたはずの誇り」とありますが、どのような誇りですか。本文中の語句を用いて三十五字程度で答えなさい。

問十二 次のア〜エについて、本文の内容と合っているものには○、そうでないものには×をつけて答えなさい。

- ア. 奥出雲では、たたら製鉄はすたれてしまったが、その伝統は合資会社によって受け継がれていった。
- イ. 作者は奥出雲から安来までの陸路と安来から新潟県の三条までの海路を総称して「鉄の道」と呼んでいる。
- ウ. ブランド牛の「奥出雲牛」は鉄の原材料を運搬するために品種改良をされ、現在も荷役用として活躍している。
- エ. 奥出雲地方に多く見られる美しい棚田は、人間の手によって打ち壊されてしまった自然をその出発点にしている。

三 次の各問いに答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一 次の①～⑤の漢字と同じような読み方（構造）になっているものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

なお、同じ記号を複数回用いてもかまいません。

- ① 手帳      ② 台所      ③ 稲妻      ④ 夕刊      ⑤ 田舎

ア．生命（いのち）    イ．本屋（ほんや）    ウ．野宿（のじゆく）    エ．裏庭（うらにわ）

問二 次の①～⑤の——部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 多くの意見がでたので、キヨシユによる採決をとった。  
② 国道の道はばをカクチヨウする計画が立てられた。  
③ リサイクル品から壊れたものを取りノゾク。  
④ 十万分の一の縮尺の世界地図を買う。  
⑤ 手間を省いて時間を節約する。



**B** ことわざ・慣用句に関する問題

問三 次の①～⑤が慣用句になるように、空欄部  にあてはまる体の部分を表す言葉をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

- ①  塩にかける … 〈意味〉 とても大切に育てる。
- ② 木で  をくくる … 〈意味〉 そっけない態度で応じる。
- ③  からうろこが落ちる … 〈意味〉 新しい事実を知って驚く。
- ④  が下がる … 〈意味〉 尊敬や感謝の気持ちが変わく。
- ⑤  を長くする … 〈意味〉 期待して待ちこがれる。

**C** 文法・言葉づかいに関する問題

問四 次の①～⑤の文章の——部には、言葉の使い方に誤りがあります。それぞれ五字以内でもっともふさわしい言葉に直しなさい。

- ① 怒り心頭に達する事件が発覚した。
- ② 主役として彼女に白羽の矢が当たる。
- ③ まさか母は帰国の日を知っているだろう。
- ④ 私の夢は、宇宙飛行士になりたい。
- ⑤ 苦手な野菜も何とか食べれたよ。





